

第二編

中期計画進捗状況

～学部・研究科の取り組み～

I. 平成 25 年度の重点事項，実績及び自己評価

平成 25 年度の重点事項は，1. 教育分野，2. 研究分野，3. 国際交流分野，4. 産学連携・地域連携・外部資金分野，5. 情報・広報分野，6. 組織・人事分野，7. 施設・設備・環境分野 及び 8. 評価分野の 8 分野からなり，それぞれが，【平成 25 年度重点事項】，【平成 25 年度実績】，【平成 25 年度自己評価】で構成されている。

自己評価 I = 「年次計画を実施していない」
II = 「年次計画を十分には実施していない」
III = 「年次計画を十分に実施している」
IV = 「年次計画を上回って実施している」

1. 教育分野

【平成 25 年度重点事項(1)】

(1) 新学科及び新カリキュラムをスムーズに立ち上げられるように，定期的な進行状況の確認及び新入生の動向の調査を行う。

【平成 25 年度実績(1)】

・学科改組後 1 期生の 1 年生前期終了時点での GPA を分析し，履修状況の把握を行った結果，大きな問題がないことを確認した。同様に後期の成績も分析し，通年での成績評価を行い，問題があれば指導を行う準備ができています。

・学科改組後の新カリキュラムにおいて，全学共通科目と学部専門科目連携の理解の促進のために，関連性の高い科目間を実線で連結することで見える化したカリキュラムフローを作成し修学に利用した。

【平成 25 年度自己評価(1)】

自己評価 III

【平成 25 年度重点事項(2)】

(2) 授業評価アンケートを教育効果改善へ反映させる具体的方法を検討するとともに，教育効果の検証・学士力の評価システムの導入について検討する。

【平成 25 年度実績(2)】

・前期に引き続き，後期開講科目について学部独自の授業評価アンケート（紙媒体）を実施した。

・評点最高位の教員にベストティーチャー賞を授与するとともに，上位 5 名には追加予算配分のポイントを加算した。一方，下位 5 名はピアレビューを行い，授業方法及び内容を検討・評価した。

・部局外から講演者を招聘したシンポジウム形式の「FD シンポジウム」を開催し，多くの教員及び学生の参加を得た。

・学士力測定用の市販テストを学部 1 年生及び 3 年生に実施した。これにより 2 年後には平均値の推移をみることで，教育効果を定量的に測定することができる。一方，学生個人としては 2 年間の能力向上を確認することができる。

・外航海運会社の協力を得て，外航船舶職員を対象とした当該テストを実施した。

【平成 25 年度自己評価(2)】

自己評価 III

【平成 25 年度重点事項(3)】

(3) 学生及び大学院生が安心して修学できるように、メンタルケアの実施、相談方法の周知、各種情報の提供などの学生支援体制を整備する。

【平成 25 年度実績(3)】

- ・留学生のための日本文化理解及び日本語能力向上を目的としてのチューター制度を実施しているが、実施報告書及び留学生アンケートを分析して留学生チューター制度の改善を継続的に行っている。
- ・部局主催で留学生懇親会を開催し、留学生及び日本人学生の親睦を図った。
- ・留学生、日本人学生の英会話力の向上及び交流プログラムを推進するために、外国人教員による e-café を定期的実施した。また、部局内ハラスメント相談員として外国人教員を起用し、留学生対応を強化した。
- ・修学状況を把握するため、留学生本人及び指導教員に対し留学生現況調査を実施し、継続的な留学生支援活動を行った。
- ・昨年度に引き続き、全学生に対するメンタルチェック（テスト）を実施し、その結果を学生指導に使用した。

【平成 25 年度自己評価(3)】

自己評価 III

2. 研究分野

【平成 25 年度重点事項(1)】

(1) 国際海事研究センターを中心に、他研究科や学外機関との共同研究を推進する。また、学内外研究者連携によるプロジェクト研究を提案し、実施に向けて検討する。

【平成 25 年度実績(1)】

- ・神戸大学と包括的連携活動を開始した JAMSTEC との部局間連携強化を行うために、意見交換会を実施した。それにより、JAMSTEC 所属の招聘教員の海事科学研究科での授業開講の詳細及び大学院生の研究推進のための JAMSTEC への派遣制度の骨子が検討され、実施が具体化した。
- ・平成 25 年度版海洋基本計画に記載のある項目に関しての教員の関与・関心度に関するアンケート調査を行い、その結果を教員に開示した。それにより自発的な教員グループ構築を促した。
- ・内閣府の大型プロジェクト募集（SIP）に短時間に 6 件の応募を生み出すなど、自発的な教員グループの構築は大型プロジェクト研究提案に結び付ける端緒となった。

【平成 25 年度自己評価(1)】

自己評価 IV

【平成 25 年度重点事項(2)】

(2) 学科改組に伴って採用される新規教員、特に若手教員に対して、研究スペース及び研究資金を確保する等の支援を行う。

【平成 25 年度実績(2)】

- 平成 25 年度に新規に採用した 8 名の教員には、計画的に確保した教員のスペースを利用して、1 名当たり 80 m²（教員研究室、実験室、学生研究室の 3 室相当）の研究スペースを提供し、円滑な教育・研究の立ち上げを支援した。
- ・8 名の新規採用教員には、教育研究費の他にスタートアップ資金として 100 万円を配分した。

【平成 25 年度自己評価(2)】

自己評価 III

3. 国際交流分野

【平成 25 年度重点事項】

次年度の国費留学生優先配置プログラムへの申請を睨み、MD 一貫コースの中の英語授業科目群の整理と効率的な実施のための体制を整備する。

【平成 25 年度実績】

- ・国費留学生優先配置プログラムは不採択であったが、スーパーグローバル大学の一員として、大学院開設科目の先端融合科学特論に外国人講師を招聘し、平成 26 年度より英語による授業を開始するための準備を完了した。
- ・大学院前期課程に開設予定の英語コースの授業科目群構成及び担当教員等について具体化を推進している。
- ・TOEIC 講習会及び課外英語教室を昨年度に引き続き開講し、英語による授業に対する学生の準備支援を行った。

【平成 25 年度自己評価】

自己評価 III

4. 産学連携・地域連携・外部資金分野

【平成 25 年度重点事項】

地域貢献として神戸市等との連携による海洋教育への協力、外部資金獲得と言う観点から企業研修への利用、また、拠点化申請のための共同利用日数の増加など、練習船深江丸の有効利用を図る。

【平成 25 年度実績】

- ・深江丸を利用した東灘区との共催による「こども体験スクール 2013」、本研究科主催（日本船舶海洋工学会後援）「体験型海洋セミナー」を実施した。
- ・深江丸を利用して、6 社の企業新人研修等を行った。
- ・深江丸を利用して、航海機器メーカーとの新規の共同研究を開始した。
- ・深江丸の教育関係共同利用拠点申請のために 12 大学の利用申請を受理し、平成 26 年度の運航予定表に追加した。

【平成 25 年度自己評価】

自己評価 III

5. 情報・広報分野

【平成 25 年度重点事項】

保護者や企業に対して、学科改組など学部の動向に関する情報を提供するとともに、カリキュラムや就職等に関するアンケートを実施し、ステークホルダーの意見をうかがう。

【平成 25 年度実績】

- ・保護者に対して実施したアンケート結果をホームページで公表した。また、平成 26 年 1 月に開催した学生後援会理事会（保護者 90 名参加）終了後に、学部の動向の説明と学生指導に関する情報提供と意見交換を行った。
- ・会社合同説明会（平成 26 年 1 月実施）において企業対象アンケートを実施した。

【平成 25 年度自己評価】

自己評価 III

6. 組織・人事分野

【平成 25 年度重点事項】

若手教員，女性教員，外国人教員を採用する。また，テニユアトラック制や任期制（特に海技免状等特殊な技能が必要なポスト）について検討する。

【平成 25 年度実績】

- ・平成 25 年度に公募した 8 ポストについて，女性教員及び外国人教員を含む 8 人の採用が実現した。
- ・海事科学研究科の将来に貢献できる人材獲得を目指した特命助教（任期付きインセンティブ助教）の募集を行ったが，適格者を欠き，引き続きの募集を行うこととした。
- ・海技教育の強化を目的として，海技士免状を有した教員を募集したが，博士の学位と一級海技士免許を有する若手候補者の応募がなかった。
- ・プロジェクト担当教員採用を検討した。

【平成 25 年度自己評価】

自己評価 III

7. 施設・設備・環境分野

【平成 25 年度重点事項】

練習船深江丸の代船設計，共同利用増加，学内管理制度の検討など，拠点化申請のための準備を行う。

【平成 25 年度実績】

- ・平成 25 年 12 月に練習船深江丸教育関係共同利用準備委員会を開催し，深江丸の教育関係共同利用について検討を行った。
- ・平成 26 年 5 月の練習船教育関係共同利用拠点化申請のために，11 大学より参加申請を取り付け，運航予定表を作成した。また，学内関係規則等の新設，改正に向けて一定の目途が立った。
- ・海技教育センターを核として小型舟艇類及び海岸施設の安全運航・運用マニュアル（SMS マニュアル）を継続利用して，安全管理の強化を行った。

【平成 25 年度自己評価】

自己評価 III

8. 評価分野

【平成 25 年度重点事項】

自己点検報告書の作成及び外部評価を実施する。

【平成 25 年度実績】

- ・第二期中期計画期間前半（平成 22～24 年度）の自己点検報告書を作成し，平成 25 年 9 月には 5 名の外部評価委員による外部評価を行った。また，その関係資料を教授会において説明し，今後の海事科学研究科の教育，研究，社会貢献等の改善に有効に利用するよう教員全員に周知した。

【平成 25 年度自己評価】

自己評価 IV